（様式第１号）（第２条 16 号関係）

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

１　評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡 1 丁目 35 番 5 号
評価実施期間： 平成 30 年 10 月 3 日から平成 31 年 3 月 8 日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） Ｂ１６０２１、Ｂ１８０１４、０５０４８２	

２　福祉サービス事業者情報（平成３１年　１月現在）

事業所名： （施設名）　長野市寺尾保育園			種別： 保育所
代表者氏名：　市長　加藤　久雄 （管理者氏名）　保育・幼稚園課長　中澤　和彦			定員（利用人数）：　60 名（48 名）
設置主体：　長野市 経営主体：　長野市			開設（指定）年月日： 昭和 43 年 4 月 1 日
所在地：〒 381-1213 長野県長野市松代町小島田 3571 番地			
電話番号： 026-278-3648			FAX 番号： 026-278-3648
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/			
職員数	常勤職員：　12 名	非常勤職員:　3 名	
専門職員	（専門職の名称）　名		
	・園長　1 名	・保育士　10 名	
	・保育主任　1 名	・給食調理員　2 名	
	・主査　1 名		
施設・設備の概要	（設備等）	（屋外遊具）	
	・乳児室　…　1 室 ・ほふく室…　1 室 ・保育室　…　4 室 ・遊戯室　…　1 室 ・調理室　…　1 室 ・事務室　…　1 室 ・便所　…　2 室	・2 人ブランコ ・三間低鉄棒 ・はん登棒 ・ジャングルジム	

３　理念・基本方針

長野市が目指す子どもの姿

（長野市乳幼児期の教育・保育の指針より）

かがやく笑顔で　げんきに遊ぶ　しなのキッズ

安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して
友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。

【教育・保育の基本方針】

○健康な心と体を育てる
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う

○感じて、考えて、チャレンジする力を育てる
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる

○自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。

○人との関わりを大事にする教育・保育の実践
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践

○家庭や地域との連携
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育ち・子育て支援を行います

○保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

○寺尾保育園　保育目標

○たくさんあそんで　みんなで　やってみよう

４　福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当寺尾保育園は長野市が直接運営する 28 園(内休園 1 園)のうちの一つで、昭和 43 年 4 月に開設されて以降、長野市が運営している。

当保育園は開設当初は定員 120 名であったが、子どもの減少から昭和 59 年 3 月末には定員が 60 名となった。その後、平成 13 年 6 月に新園舎の建設に着手し、平成 14 年 3 月に新園舎が竣工し定員 60 名のまま推移している。すでに 18 年が経過しているが、唐松やイタヤカエデで造られた廊下や床は自然塗装されていることから建設当初からの木の良さを損なうことなく、園の歴史を感じさせないほど維持・管理が行き届いている。

当園に通う多くの子どもたちの自宅のある松代町東寺尾、柴、小島田、牧島、大室地区は長野市の東南に位置し、大室古墳群や柴石の産地、ＮＨＫ大河ドラマ「風林火山」で有名な山本勘助のお墓などの史跡や文化財などがあり、マニアにとっては垂涎の地となっている。また、周辺は特産の長芋や野菜の畑が広がり、その土地柄から三世代同居の家庭や近くに祖父母がいる子ども多く、昭和 60 年代から平成初頭にかけて開発された一戸建ての団地もあることから、近年はこの団地からの子どもたちの利用が多くなっている。

当保育園はその松代町小島田地区にあり、園舎の周りは自然が豊かで北側には子どもたちが日常的に散歩をする堤防があり、千曲川が流れている。また、地域には大室古墳群が裾野にある奇妙山に繋がる金井山という里山があり子どもたちが四季を通して登ったり、同じく奇妙山の山ふところにある農業大学校にはヤギや羊、牛などの動物がいることから足を延ばして出掛け、また、春の桜は圧巻で隠れた花の名所となっている。

子どもたちの園外保育の選択肢も幅広く、四季を問わず天気の良い日には散歩や遊びに出掛けている。当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)には里山や神社、千曲川河川敷、小学校、地域密着型特別養護老人ホームなどがマークされイラストなどで分かり易くなっている。四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。

地域の人々との交流も盛んに行われており、地域の方の絵本の読み聞かせや近所の方の畑での農業体験などがあり、また、長野市を始めとした北信地区にあるバスケットや野球、サッカーなどのプロスポーツの選手たちとも交流している。

また、当保育園の近くには園の多くの子どもたちが就学する寺尾小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校の1年生と交流し、小学校の音楽会、運動会などへの招待を受け様々な体験をし、就学に向けて期待と希望に胸を膨らませている。今年度はその小学校の夏休みに校長や教頭をはじめとした先生方が2日間にわたり数名ずつ訪れ、子どもたちの姿を見て、小学校の学びへと繋げるための保育体験もしている。

現在、当園には0歳児2名のいちご組、1歳児6名と2歳児4名のもも組、3歳児9名の青りんご組、4歳児14名のあかりんご組、5歳児13名のめろん組の五つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された平成30年度の「全体的な計画(保育課程)」の下、園の目標、「たくさんあそんで　みんなで　やってみよう」に沿い、一人ひとりの発達過程を踏まえ、健康、人間関係、環境、言葉、表現の保育内容の5領域を意識した保育の組み立てにより、子どもが身につける望ましい心情、意欲、態度を育成し、合わせて、子どもの自発的な遊びが深まり、総合的な心身の発達へとつながるようにしている。

当保育園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、障害児保育、おひさま広場等を実施している。長時間保育は時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用している子どもが朝20名、夕38名前後となっている。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じて支援することができるようになっている。障害児保育は保育を必要とする心身に障がいを持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスでいつでも受け入れることができるようになっている。

当園では市街地にある児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」と定期的に交流をしており、障がいを持つこどもが園を訪れたり、年長児が公共交通機関のバスを使い発達支援センターを訪問したりしている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で　元気に遊ぶ　しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画　～わくわく子育て　すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、福祉サービスの第三者評価の受審、公開保育の実施、信州型自然保育(信州やまほいく)の認定、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログムの活用で運動機能の育成を図ることなどを掲げ積極的に取り組んでいる。また、当園の今年度の事業計画には重点課題として「保育内容の充実」や「保護者支援」、「安全・安心な保育の実施」など六つが掲げられおり、職員は、「保育所自己評価」に基づく課題等を踏まえ、保育園内外の研修等を通じて、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。更に、長野市公立保育園の事例検討集「一人一人に寄り添う保育」への寄稿のため園としてのテーマを決め、全職員で成功事例の共有化を図り、質の高い保育の確保にも取り組んでいる。

5　第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて

6　評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1)　心身障がい児との交流

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅰ『育ちを豊かにする』教育活動の推進」の中で「取組の方向性Ⅰ－３　人との関わりと表現力を養う活動の充実」として「自分とは異なる思いを持つ友達の存在に気付き、人には違いがあり、違っていて良いと理解する心の育成」

を掲げており、当保育園でも児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」の子どもたちと定期的に交流している。

当保育園は障がいを持つ子どももできるだけ健常児と混合保育をするという長野市の基本姿勢に基づき、多目的トイレが設けられており、また、園舎内外は段差をなくしたバリアフリーの構造となっている。

障がいを持つ子どもが園を訪れたり、年長児が社会体験も含めた公共交通機関のバスを使い発達支援センターを訪問したりして、障がいのある子どもと一緒にいることでいろいろな刺激を受け、小さい頃から障がい児と共にいるということが学習にもなっており、障がいがあってもなくても、同じ場所で同じように触れ合えるという理想の実現に向けて交流している。

教育及び福祉の領域においては「障がいがあっても地域で地域の資源を利用し，市民が包み込んだ共生社会を目指す」という理念として「インクルージョン」という考え方が浸透しつつある。インクルージョンという言葉は、本来「包含、包み込む」ことを意味している。

インクルージョンは地域社会の様々な人々によって構成されていることが自然であり、そこで、それぞれがその人らしい暮らしを築いてくことを実現していく社会の在り方を示しており、当保育園ではすでに幼児期からその取組みを行っている。

2) 自然環境を生かした保育

当保育園では 2020 年度に「信州型自然保育(信州やまほいく)」の認定を受けることを目指しており、そのため、2019 年度には公開保育を行うことが当園の 2018 年度から 2020 年度までの中期計画の中に明記されその実現に向けて積極的に取り組んでいる。また、今年度の事業計画の中の重点課題の「保育内容の充実」として「自然を生かした保育を行う」とし、実践している。

当保育園の園舎北側に千曲川が流れ、遠方には戸隠山、北アルプスの山々を見渡すことができ、豊かな自然環境に囲まれている。堤防や河川敷は四季を通して子どもたちの遊び場となっている。目的にとらわれずゆったりと歩き、子どもたちが興味を示し、五感を働かせ、いろいろな発見をする機会として大切にしている。

小雨の中や雨上がり、川のそよ風など、季節や日々の違いなどを体感しながらほぼ毎日堤防沿いで楽しい時間を過ごしている。また、近くには里山の金井山や農業大学校があり、少し遠くまで散歩に出かけて山道を登ったり、ヤギ・羊・牛などの動物と触れ合ったりしている。幼児だけでなく、未満児も堤防まで行きハイハイやよちよち歩きをしながら、自然の中での楽しさを味わい成長している。

また、枝豆、三寸ニンジン、ピーマン、さつま芋などの野菜の栽培、日々草、千日紅、サルビアなどの花の栽培、産地ならではの長芋の収穫体験などを通じ、更に、園庭にも桜、クヌギ、けやきの木々が植えられており季節の花や実りを感じている。身近な自然と触れ合う体験を重ねながら、子どもたちは自然の中でたくさん体を動かして十分に楽しみ、多くの発見や体験をし、友達同士の触れ合い、助け合いの心を育て、地域の人々ともふれあっている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針の「取組の方向性Ⅰ－１　自然環境を活かした体験活動の充実」でも「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」の三つを掲げており、当保育園でも生命や自然についての興味や関心を育て、命の大切さ、ものの美しさなどに気づく豊かな感性を育んでいる。

3) 異年齢での交流

園児数が 48 名と少人数であるので全園児が一緒に遊ぶことが多い。特に、0 歳児から 2 歳児 12 名についてはクラスが 0 歳児 2 名の 1 クラスと、1 歳児 6 名・2 歳児 4 名の 1 クラスとなっており、通常は混合保育を行い、安全に配慮した環境を整え、上の子を見てやってみようとする姿を大切に保育を行っている。

幼児は年齢別の保育を行いながら、散歩や外遊びを通じて異年齢の子ども達が生活を共にする中で互いに関わりを深め、協同して遊ぶことにより好奇心が生まれ、助け合い、思いやりの心が育ち、年齢に関係なく友達としての親しみも生まれ、自分から行動する力を育てるとともに、年齢の違う他の子どもと活動する楽しさや共通の目的を実現させるという喜びを味わっている。

コマまわしやアヤ取りなど、各クラスの遊びが年長児から年中児、更に、年少児へと自然に伝わり、年齢の異なる子ども同士で遊ぶときには、みんなが楽しく遊ぶためにルールや役割分担が

自然に生まれており、年下の子どもは年上の子どもの様子を真似してやってみようとし、年上の子どもは年下の子どもの面倒を見たり、助けたりして思いやりの気持ちを育んでいる。また、異年齢の子どもたちの関わりが続くなかで、誰もが成長とともに、お世話される側からお世話する側になるといった体験もしており、自分より年上の子どもの様子を見て学びながら、ゆっくりと人との関わり方を学ぶことができている。

当園でも、核家族化や少子化で生活している子ども達もおり、異年齢の保育で沢山の子ども達と接することで、大きな子は小さな子に配慮し、小さな子は大きな子を尊敬し、互いを尊重する心を育てており、家庭的な雰囲気の中で職員も一人ひとりの子どもを理解し、日々の保育を行っている。

4) 地域の人々との交流

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅳ『育ちを支える』家庭・地域との連携」としてその取組の方向性「Ⅳ−２　地域交流活動の充実」を掲げ、「地域の文化に触れ、地域に親しみや愛着が持てるように地域交流を指導計画に位置づけて、活動を推進」・「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」と明文化されている。当保育園でも職員が「地域を知り地域とのかかわりを大切にした保育」を大切にしており、寺尾地区を知ろうと学習会などを開き理解を深め、保育活動に活かしている。

当保育園の事業計画や全体的な計画としても文書化し、地元寺尾区などと積極的な連携を図り子どもたちが地域の社会で色々な体験ができるようにしている。地域のイベント（松代美術展、松代でひなまつり、エコール・ド・松代の灯篭飾り、ＪＡの絵展示など）に積極的に参加し、また、寺尾地区の運動会に子どもたちと保護者、職員が参加し地域の人々と交流している。園を中心とした、小学校、農業大学校、老人福祉施設、河川敷、里山などのイラスト入りのフィールドマップがあり、天気にかかわらず午前中に散歩に出掛け、地域の人々に挨拶をするなど、大人との関わりもできるようにしている。近くの老人福祉施設のお年寄りとの世代間交流、未就園児対象のおひさま広場(園開放、育児相談)、職場体験・実習生の受け入れなども実施されている。

また、地域の伝統を知る機会として地区の方々の協力で、特産の長芋堀りを見に出かけて収穫の様子を見学したり、さつま芋の栽培についても地区の方から畑を提供していただき栽培の指導を受け、苗植え、水やり、草取りを園児の手で行い収穫までの生長の様子を知ったり、焼き芋会を行い、園周辺のお宅にもお裾分けするなど様々な交流をしている。

更に、子どもたちが小学校の運動会や音楽会へ招待され参加し、小学校１年生と交流したり、小学校の先生が園を訪問するなど、小学校とも密に連携をとっている。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 安全への更なる取り組み

当保育園では想定を変えた避難訓練を毎月実施しており、そのほかに、年２回の総合的な消火訓練と年１回の通報訓練を実施している。また、災害時に子どもの安全を確保するため、市、支所や学校、駐在所、地域、消防署、保護者等の関係者を挙げて必要な対策を講じている。

災害発生時の危機管理マニュアルや土砂災害に関する避難計画を基に、引渡し訓練、職員非常召集訓練等も園全体で行っており、消防署、小学校等と連携し、農業大学校を避難先としている。市としての備蓄リストがあり、園内には水や食料の備蓄が準備され、各クラス、事務所には避難持ち出し袋が準備されている。

不審者を想定した避難訓練も実施されており万が一に備えられているが、市としてのマニュアルに当保育園として想定されるリスク対策も加えマニュアルを整備され職員全員がそれを熟知し、更に、日頃からの訓練などを通して実際に不審者の侵入があった場合に更に備えておくことも重要ではないかと思われる。

当園では予め決めておいた合言葉を放送するようにしているが、主要道路から一歩入った場所に園があり、南側と西側は開放的で、出入りも容易であることから、防犯対策（不審者対応を含めた）を更に充実されることを期待したい。

2) 園庭の遊具について

幼児の主体的な遊びの環境として当保育園の園庭には砂場、樹木のある場、水のある場などがあり、それらが複合的に構成され、遊びのきっかけや拠点となって多様な遊び場を提供している。
子どもが何かをするということは五感を働かせて体験することであり、また、学習することでもあり、まさに生きているということである。大人から見たら無駄な「遊び」にしか見えない行いが、子どもにとっては脳の機能を高める重要な体験であり学習となっているものと思われる。
1995 年に改定される前の幼稚園等設置基準では「すべり台」、「ブランコ」、「砂場」を備えなければならないとされていたが、現在はその制約はなく、多様な固定遊具が開発されており、独自の遊具の設置が望ましいとされている。
固定遊具については体全体を動かす運動的な道具として用いつつ、友達といっしょに遊ぶことで社会性を身につける機会にもなるもの思われる。現在、当園には使用できない固定遊具（滑り台、雲梯）があり、可能であれば早期に撤去され、より広々とした環境の中で子どもたちがより安全に遊ぶことができるように整備されていくことを期待したい。

７　事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添１）並びに内容評価項目の評価対象Ａ（別添２）

８　利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添３－１）

９　第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成３１年　３月　７日記載）

今回、第三者評価を受けるにあたり、全職員で各種マニュアルの確認、長野市の保育理念や基本方針を基に園目標や計画に添った保育が進められているか、園内外の環境設定について園内研修を重ね、職員の意識・保育の質の向上につながる良い機会になりました。
特に良い点にあげていただいた「心身障がい児との交流」「自然環境を生かした保育」「異年齢での交流」「地域の人々との交流」については更に伸ばし、努力して継続していきます。
改善を必要とする「安全への更なる取り組み」「園庭の遊具について」は職員で話し合いや研修を積み重ね、自園だけでは解決できないことは保育・幼稚園課の指導を受けながらできることから取り組んでいきます。
保護者の皆様には、お忙しい中アンケートにご協力いただき、心温まるお言葉や、改善を望まれるご意見をいただきありがとうございました。また、コスモプランニング様には自園の良い所や改善点を示していただきありがとうございました。
職員一丸となり今後も子ども達の為に、よりよい保育を目指し努めていきたいと思います。